



ねりま区報創刊 60 周年記念特集号を発行

～記事にゆかりの昭和 39 年の東京オリンピックの聖火リレーランナー随走者や
人気ラジオDJのケイ・グラントさんのインタビューも登場！～

発行	6月1日(土)	配布	新聞折り込み(朝日・産経・東京・日経・毎日・読売)、区立施設、区内および周辺各駅、区内金融機関・郵便局・公衆浴場・ファミリーマート・セブン-イレブン、練馬区ホームページ(PDF版)
----	---------	----	--

練馬区の広報紙である「ねりま区報」は、昭和 28 年(1953 年)5 月 11 日に創刊してから今年で 60 周年を迎えた。これを記念し、「ねりま区報創刊 60 周年記念特集号」(タブロイド判 4 ページ。6 月 1 日発行の通常号に挟み込み)を発行する。発行部数は、約 25 万部。

特集号では、創刊号を中心とした歴代区報の写真や、「未来へつなぐねりまの足跡～区報で振り返るあの頃」をテーマに、過去の区報の中から、区政に関する記事を 3 つ採りあげ、その記事にゆかりのある区民に当時の思い出を語ってもらっている。



【特集号 1 面】

【区報 60 年の歩みなど (1 面)】

創刊号を中心とした歴代区報の写真などで、区報 60 年の歴史を振り返る。志村豊志郎区長は、「区報の歴史は、区民の皆さまとともに築いてきた練馬区の発展の足跡を物語る貴重な財産」とメッセージを寄せる。

【未来へつなぐねりまの足跡～区報で振り返るあの頃 (2～4 面)】

■掲載紙面…昭和 39 年 9 月 30 日発行第 78 号「オリンピック聖火 区内通過近づく」

- ・思い出を語る区民…昭和 39 年の東京五輪聖火リレーランナー随走者/笠松 孝男さん

当時の区報では、区民ランナー 46 名が区内の全長 2.5 km のコースを走ると伝えている。区民ランナーの一人だった笠松孝男さんは、「無事に聖火リレーをつなげなければ」という気持ちを今でもはっきり覚えていると、当時の緊張感とオリンピックの感動を語る。

■掲載紙面…昭和 49 年 2 月 1 日発行第 232 号「グラントハイツに大公園が!!」

- ・思い出を語る区民…グラントハイツに由来する芸名を持つラジオDJ/ケイ・グラントさん

現在の光が丘一帯は、第二次世界大戦後、米軍家族宿舎「グラントハイツ」として利用され、昭和 48 年 9 月に日本に返還された。当時の区報では、返還後の跡地利用計画についてお知らせしている。グラントハイツを間近に生まれ育ったラジオDJのケイ・グラントさんは、「すぐ横にあった憧れのアメリカでした」と幼少の頃の楽しかった日々を振り返る。

■掲載紙面…昭和 53 年 3 月 1 日発行第 369 号「カネボウ跡地 区と都による先行取得きまる」

- ・思い出を語る区民…カネボウ跡地の取得に尽力した当時の町会長/堀越 正一さん

昭和 45 年まで練馬駅の北側には、旧カネボウの工場があった。当時の区報では、工場閉鎖後の跡地について、東京都に対して区議会や地域住民とともに粘り強く要請活動を続けてきた結果、公共用地として取得に至ったことなどを伝えている。今年 101 歳になる当時の地元町会長の堀越正一さんは、区とともに取得に尽力したいきさつや、「今後のさらなる発展を楽しみにしている」と語る。

【問い合わせ】区長室 広聴広報課 広報係 電話 03-5984-2690